

平成 22 年 1 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 22 年 1 月 28 日
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(754)9816

今月のトピックス

- インフルエンザが警報解除レベルの「10」を下回り、1月21日警報が解除されました。
- 焼肉チェーン店での腸管出血性大腸菌感染症の報告が相次ぎました。
- 感染性胃腸炎が増加しています。
- R S ウイルス感染症の報告数が増加しています。

平成 21 年 12 月 21 日から平成 22 年 1 月 24 日まで、ただし、性感染症については平成 21 年 12 月分の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成 21 及び 22 年 週 - 月日対照表

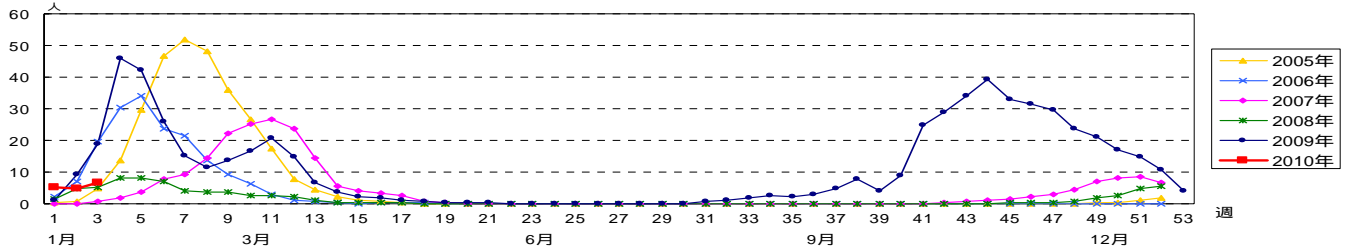
第 52 週	12 月 21 ~ 27 日
第 53 週	12 月 28 ~ 1 月 3 日
第 1 週	1 月 4 ~ 10 日
第 2 週	1 月 11 ~ 17 日
第 3 週	1 月 18 ~ 24 日

全数把握の対象

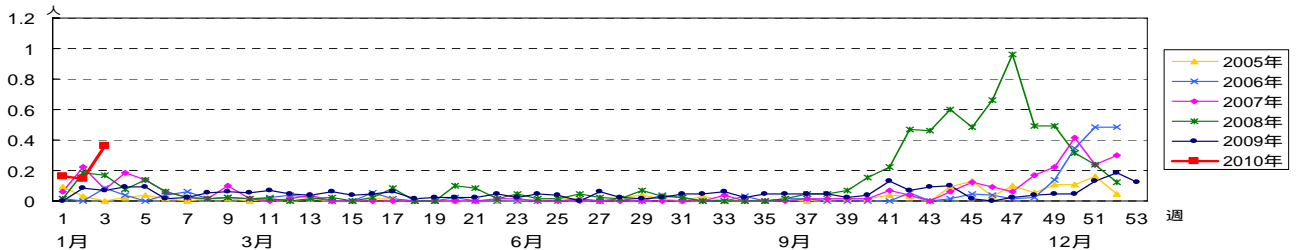
- 細菌性赤痢:** 1 例報告があり、渡航地はマリでした。
渡航予定の際は、予定地の安全情報を確認しましょう。
安全情報についてはこちらをご参考下さい。
<http://www.anzen.mofa.go.jp/> (外務省 海外安全ホームページ)
- アメーバ赤痢:** 4 例報告があり、前月の追加報告も 2 例ありました。うち 4 例は国内での感染が疑われます。
アメーバ赤痢についてはこちらをご参考下さい。
<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/disease/entamoeba1.html> (横浜市衛生研究所)
- 腸管出血性大腸菌感染症:** 5 例報告があり、前月の追加報告も 2 例ありました。うち 2 例は、同じ焼肉チェーン店での感染です。他自治体からの同チェーン店での感染事例は 20 件以上と多数報告されています。外食、中食、内食を問わず、肉類の喫食の際の十分な加熱について、注意喚起が必要と思われます。
予防対策についてはこちらをご参考下さい。
<http://www.mhlw.go.jp/za/0818/c07/c07.html> (厚生労働省医薬品食品局)
- HIV 感染症:** 3 例報告があり、うち 1 例は既に AIDS を発病していました。また、うち 1 例は梅毒との重感染でした。HIV 感染症に関しては、薬剤等治療の進歩等著しいとはいえ、AIDS の段階では治療に難渋することもあり、早い時期の診断が大切です。
HIV 感染症についてはこちらをご参考下さい。
<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/disease/hiv.html> (横浜市 衛生研究所)
- 梅毒:** 2 例が報告され、前月の追加報告も 2 例ありました。性感染症は予防が何より大切ですが、ここ数年報告数は減っていません。性感染症に関する正しい知識の普及が必要です。
性感染症についてはこちらをご参考下さい。
<http://idsc.nih.go.jp/iasr/29/343/tpc343-j.html> (感染症情報センター)
- 麻疹:** 3 例が報告され、前月の追加報告も 1 例ありました。ワクチン接種前の 1 歳児の感染も報告されました。1 歳の誕生日を迎えたら、すぐに MR の予防接種をするよう勧奨する必要があります。
麻疹についてはこちらをご参考下さい。
<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/disease/measle1.html> (横浜市 衛生研究所)
- バンコマイシン耐性腸球菌 (VRE) 感染症:** 前月以前の追加報告が 10 例あり、8 例の耐性遺伝子が van C で、1 例は van B、1 例は不明でした。臨床的に問題になるのは van A、van B ですが、通常無菌であるべき検体より van C の VRE が検出された場合も届出が必要です。
VRE についてはこちらをご参考下さい。
http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k02_g1/k02_16/k02_16.html (感染症情報センター)

定点把握の対象

- 1 **インフルエンザ**: 市内流行状況については、第 32 週(8月3日からの週)に流行の目安となる定点あたりの報告数(以下略)1を超え、第 44 週には 39.18 と今シーズン最大となりました。第2週は 4.70 でしたが、第3週は 6.70 と微増しています。全国で 9.03、神奈川県(横浜、川崎を除く、以下県域)では 8.00、川崎市 7.28、東京都 6.59 でした。定点医療機関からご協力頂いている迅速診断キットの結果は、A 型 744 件、B 型 7 件、AB 陽性が 4 件でした。施設閉鎖は、第 44 週は 269 施設、患者 4969 人でしたが、第2週は 5 施設 33 人、第3週は 14 施設 123 人とやはり微増しています。1月28日現在、季節性インフルエンザは検出されていません。

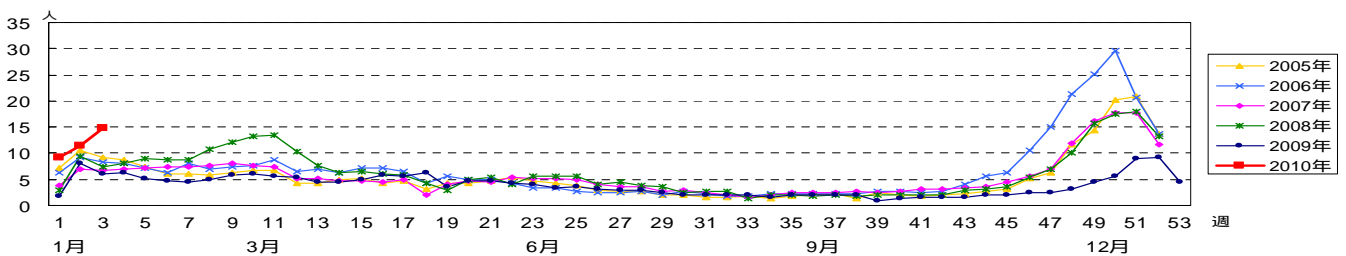


- 2 **RSウイルス感染症**: 例年冬季に流行が見られる小児の重要な感染症であり、第3週は、0.36 と増加しています。全国では 1.30、県域では 0.57、川崎市 0.38、東京都 0.60 でした。この時期では過去5年で最大の報告となっており、今後の推移が注目されます。



- 3 **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 第3週では、1.83 です。過去5年間でも高めで推移しています。行政区別情報では、港北区 7.00、磯子区 5.33、栄区 3.67 と続きます。全国では 1.33、県域 1.02、川崎市 1.09、東京都 1.60 です。

- 4 **感染性胃腸炎**: 第3週では 14.86 です。例年 11 月から立ち上がり、12 月にピークを迎えますが、今期は 1 月に入って立ち上がり、報告数としてはこの時季では過去5年間で最大となっています。行政区別では緑区 31.33、神奈川區 25.50、旭区 24.17、泉区 20.00 と4区が警報レベルの 20 を超えています。全国 13.81、県域 17.53、川崎市 19.44、東京都 16.65 と、近隣自治体も報告数が増加しています。市内では集団感染も報告されており、今後は例年のように立ち上がってからの数週間は増加傾向となるのか、今後の動向に注意が必要です。



- 5 **性感染症**: 性感染症は、産婦人科系の 11 定点、および泌尿器科・皮膚科系の 15 定点からの報告に基づき、1 か月単位で集計されています。

12 月は、11 月に比べて全体としては大きな変化はありません。性器クラミジア感染症は、男性 14 例、女性 18 例でした。性器ヘルペスウイルス感染症は男性 6 例女性 4 例です。尖圭コンジローマは男性 2 例女性 4 例、淋菌感染症は男性 11 例女性 2 例でした。

<http://idsc.nih.go.jp/iasr/29/343/tpc343-j.html>(感染症情報センター)

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。
 横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>